



# 広袴便り

広袴町内会  
会報第68号

発行日  
2026(令和8)年  
1月1日

発行責任者  
広袴町内会  
水野利雄

## 新年のご挨拶

新しい年を迎え、町内会の皆さまに心よりご挨拶申し上げます。昨年は、地域の清掃活動や防災訓練、祭礼などに多くの方々がご参加くださり、互いに支え合う温かな絆を改めて感じる一年となりました。ご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。



本年も、安心して暮らせるまちづくりを目指し、火災予防や防犯交通安全、お年寄りや子どもたちを支える活動を続け

てまいります。災害への備えは一層強化し、いざという時に助け合える体制を整えることが重要です。皆さん一人一人が行事や訓練活動により多く参加することを願いますと同時に、皆さまが気軽に参加できる環境を整えてまいります。地域の力は、一人ひとりの思いやりと行動の積み重ねによって育まれます。本年もどうぞ変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 町作りの5つの柱

- 1 安心、安全な町
- 2 子どもお年寄りを大事にする町
- 3 きれいで清潔な町
- 4 伝統、文化を大切にしている町
- 5 ご近所の触れ合いのある町

皆さまにとって健やかで実りある一年となりますことを心より祈念いたします。

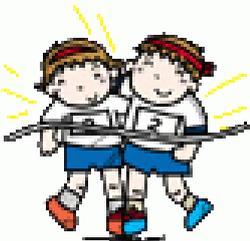
(広袴町内会会長 水野利雄)

## 鶴川連合交流運動会(中止)

「十月二十六日鶴川連合交流事業 運動会が雨天中止となりました」

十月二十六日(日)、町田ギオンスタジアムで開催予定されていた鶴川地区町内会自治会連合交流会2025大運動会&ウルトラクイズが、雨天のため中止されました。大会本部が前日午後2時に、雨模様と翌日午前にかけて雨脚が強くなるとの予報をもとに決定しました。

本イベントには広袴町内会から60名強の参加が予定されていきました。準備には町内会三役と環境厚生部があたり、広袴子ども会と町田市消防団第三分団第七部組織の協力がありました。写真は中止になった当日のお弁当配布の様子です。



(1組 川良徳弘)

## 作品展示会

十一月八日(土)、九日(日)の両日、広袴会館にて、恒例の作品展示会が開催されました。たくさんの方(2日間で延べ130人)にご来場いただき、創作活動の発表の場、また、地域の文化的な交流の場として、とても心温まるイベントになりました。

今年は、総勢40名近くの方から、100点余りの作品が出品されました。絵画や写真、手芸、書道、工作などジャンルはさまざま。子どもたちの元気いっばいな作品や、長年の趣味を生かした大人の力作まで、どれも個性に溢れる素敵な作品ばかりでした。



グループで出品された「さわの会」の皆さまにお話を伺うことができました。公園内に落ちてい

訪れた方々は、「これどうやって作ったの?」「とってもしきれいなね!」と笑顔で話を弾ませ、作品を通じて自然と会話が生まれていました。取材の中で、グ

るモミジバフウを使ったストラップ、無患子のブレスレッドなど、手作りの可愛い作品が並べられ、クリスマスグッズで飾られたコーナーも目を引きました。「さわの会」は、毎月第一水曜日午後1時から開催されていますので、ご興味のある方は「是非ご一緒にどうぞ」とのことです。皆さん、それぞれ楽しんで創作活動に取り組む、素敵な時間を過ごされていることが分ります。次回もぜひ多くの方々にご参加いただければと思います。

出品された皆さま、ご来場された皆さま、また、実行委員会を務めた文化部の皆さま、ありがとうございました。(16組 星川伸)



## クリーンアップデー実施!

九月十四日(日)、前日までの雨で湿度が高く、まとわりつくような暑さの中、本年度二回目のクリーンアップデーが実施されました。

班長として、ボランティア袋を広袴会館へ取りに行くために9時ごろ家を出たところ、もうすでに作業を始めている方を数名見かけました。

班の会員宅へボランティア袋を配り、取材を開始しようとしたのですが、三連休の中日ということもあるのか自宅周辺は前回よりも人が疎らな様子。

そこで少し移動してみると、大きな道路の歩道の植え込みの雑草を抜いている方々や、せせらぎ緑道の掃除をしている方、広袴公園付近でも作業されている方がいらっしやり、たくさんの方が公共の場を綺麗にしてくださっていました。



ティア袋を片手にゴミを拾っていたりする姿が多く見られました。

感謝の気持ち

とお手伝いできない後ろめたさを感じながら、少しでも写真を撮らせていただき、自班に戻りました。戻り途中も、自宅周りを掃き掃除していたり、ボラ

ご近所の方と一緒に作業をしたり、お話ししたりする機会となっているクリーンアップデーに、これからも可能な限り参加していきたいと思いをしました。

足早に済ませてしまった取材でしたが、ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。

(16組 内藤郁奈子)



## 消防ポンプ車入魂式・祝賀会施

十二月七日雲一つなく晴れ渡った秋空のもと、広袴公園で町田市消防団第三分団第七部消防ポンプ車入魂式が催されました。厳かな中に式典が滞りなく行われ、およそ20年ぶりに配備された最新鋭の水槽付き消防ポンプ車の安全が祈念されました。続いて、広袴会館にて祝賀会が開かれました。今回配備されたポンプ車と第七部団員は、二〇二六年一月六日(火)東京ビッグサイトで開催される東京消防庁出初式に町田市消防団代表の放水演技体として参加します。

団員構成は(部長)堀川 彰人、(副部長)工藤 哲朗、(班長)佐藤 登、関 英男、渡邊 元雄、(会計)小泉 仁、(団員)道願 智博、猪俣 成浩、大塚 悟、長谷 芳教、永倉 大誠、三好 拓真、尾崎 耕平、西垣 賢一郎(敬称略)です。新型ポンプ車は900リットルの水を積載しているため、水利のない場所でも速やかに放水を始めることができ、災害時に給水活動を行うこともできるそうです。心強く感じるとともに、住民の一人として地域の防災・減災に取り組む気持ちが湧いてきました。

(1組 川良徳弘)



## 赤十字防災セミナー開催

「九月二十一日赤十字防災セミナーに参加しました」

九月二十一日(日)十時から十二時にかけて、広袴会館ホール1・2で、3名の講師を招いて赤十字防災セミナーが開催されました。前半は座って講義を聞き、後半は実技に取り組みました。講義は「災害の備え」のお話でした。広袴のように比較的风险の低い地域にも実際に災害が起きているので、油断はできません。発災したときに、被害を軽くし、日常生活を維持するために、普段の備えが大事です。家具の固定と安否確認の手筈、飲食物、簡易トイレ(一日6回×必要日数)、心の拠り所になるもの、スマートフォン充電用電源など非常用持出袋に入れるものです。発災時にはまず身の安全を守り、それから火災の対策をします。停電復旧に伴う通電火災が多いそうです。お話を伺って、自分の備えを振り返ろうと思いました。



実技ではマークのついた三角巾を借りて、講師から基本手技を習いました。まず、「頂点」、「端」、「底辺」という名称を覚えさせます。覚えた場所を操作して、手当場所の大きさに応じて三角巾をたたみます。名称を知っていると、説明が理解しやすいです。八つ折りまでできるようにしました。つぎは「本結び」です。左右の手で持った端を交差させて、2回結びます。結んだ後はほどき方です。片方の端を結んだ時と反対方向に引っ張りまです。引っ張った手で、今度は結び目をつまみ、反対の手で帯の部分引っ張り、結び目から端を抜き出します。手品のようにすると抜けるのは快感でした。



次に参加者同士ペアとなって、腕の吊り方、そして額の傷を想定した包帯の巻き方を習いました。基本ができるのと、これらの操作もスムーズに行う事がで

きました。傷病者への声掛けも大事だと聞きました。

最後に、担架の使い方を習いました。折り畳み式の金属製で、広げて固定する際には操作者は軍手をして怪我を防ぎます。新品で可動部分が固めなので、足を使うと良いそうです。傷病者を



ベルトで固定して、持ち手の部分を伸ばして使います。できるだけ二人で前後を

持ち上げて移動します。一人の場合は、他端のキャスターを使います。大事なのはどこに搬送するか、あらかじめコミュニケーションをとって決めておくことだそうです。実技の終わりに、救急ボックスとストレッチャー(担架)が一つずつ寄贈されることが明らかにされました。広袴自主防災隊の小谷英彦隊長のお話でセミナーは終了しました。自主防災隊が率先して災害への備えを進めていくとのことでした。隊員の方からは、町内会員の方たちが災害時の対応についていろいろ教本から学んでいただくと良いとの意見をいただきました。参加者は二十四名で、新しい三角巾を一つずつもらって帰りました。最後に、セミナーに参加していろいろ学ぶことができました。ありがとうございました。(1組 川良徳弘)

## 自主防災訓練実施

十月十九日(日)、自主防災訓練が広袴公園にて開催されました。今回は久々に起震車も登場するとのことで個人的にも「震度7ってどんな揺れなのかな?」と興味津々で現地に向かいました。



今年は残念ながら雨が降る中で開催となりました。こんな天気のためか、子供達の参加はなく、今回は大人のみの

少し寂しい開催となりました。とてもためになる内容なので来年は是非皆で参加しましょう!開会式の後早速AED実演と起震車体験の2班に分かれて訓練スタートとなりました。

私も起震車にて初の震度7を体験しました。この揺れは自分自身がうづくまるのが精一杯。柵やテレビが転倒しない様押さえるなんてことは到底



無理だという事がよく分かりました。転倒防止の対策は事前にしておかなければダメですね。

一方AEDのチームも多くの方が消防署の方の指導の下体験を始めています。体験を終えたばかりの毎年参加しているという方に感想を伺いました。すると「毎年参加しているがいつも体験は子供優先で、自分はそれを見ていただけだった。でも今回自分が体験してみても出来ていないつもりが、いざ自分でやってみると戸惑う事ばかりだった。やはり自分で体験する事が必要」とのコメントでした。なるほど。【出来るつもり】が【本当に出来る】ようになるにはやはり体験が必要だという事ですね。貴重なコメント有難うございました。

この後雨の降りが激しくなったため会場を広袴会館の中に移し、引き続きのAED体験と止血方法のレクチャーを受け今回の訓練を終了しました。そのチームの中でひとときわテキパキと体験を進める方がいらっしゃいました。終了後お話を伺うとその方は保育士さんでした。「勤務先の保育園で定期的に訓練をしているので」との事でした。

さすがです!やはり訓練をしている人は動きが全く違います!皆様もいざという現場に遭遇した時に「どうやるんだっけ?」と慌てないために、来年参加・体験して【出来る】ようにしてみたいかがでしょうか?  
(16組 石川聡)



## 吉川動物病院



診療時間 / 午前 9:00 ~ 12:00  
午後 3:30 ~ 6:30  
日・祭日 / 休診

町田市広袴 3-3-11

☎735-3487



## 防犯講習会に参加!

「九月二八日防犯講習会に参加しました」  
九月二八日(日)十時から十一時にかけて、広袴会館ホール1・2で、防犯講習会が開催されました。町田警察署の協力で、特殊詐欺の現状と対策について学ぶ機会となりました。

今年に入って町田市内では、九月時点ですでに昨年全体を上回るペースで特殊詐欺被害が発生しています。その数は七〇件以上、被害総額にして4億5千万円超と、東京都内で断トツに多いそうです。相対的に少ないものの鶴川地区でも発生しており、まさに自分事と感じました。そこで、被害にあわないための3つのポイントが紹介されました。第1に詐欺の手口を知ること、第2に電話に出ないこと、第3に最も大事な「絆」です。詐欺の手口は高度化・組織化しています。騙すために何とかコミュニケーションをとろうとしてきます。一旦やり取りが始まると、相手はその道に長けているので、なかなかその網から抜け出すのが難しくなります。従って、まず接触を避けることが最善です。携帯電話を含め、電話がかかってきたら、まず疑いを持ち、知っている相手でないことが分かれば出ないことです。

一旦出てしまっても相手が知らない人と分かれば躊躇せずに切ります。ここで相手に挑むような行為は危険です。丁寧に、でも明確に自分には不要な話だと断ります。もし、自分に大事なことと

思っただ話を聞いてしまった場合でも、とにかく一旦電話を切って、知り合いや信頼できる機関に直接確認します。つまり、「絆」を意識することです。講習会では国際電話利用契約の利用休止申請について説明がありました。報道されているように詐欺グループは海外から、そうと分からないように電話をかけてきます。この申込の手続きをすることで、固定電話にかかってくる国際電話をブロックすることが出来ます。参加した複数の方が申込書に記入して提出しました。ただ、この方法では手続きが完了するのに数カ月かかるそうです。

Web申込 (<https://www.kokusai-teishi.com/>)、下のQRコードからアクセス可能)が簡単・便利で、手続も数週間で完了するそうです。このサイトから申込書をダウンロードして、紙で交番に提出することもできます。講習会参加者は、「ドアインターホンに貼る「点検・飛び込み営業お断り!」シールをもらいました。それから、鶴川街道の自転車の乗り方について説明がありました。原則として車道を通行します。例外的に歩道を通行できる場合の一つが、運転者が高齢者(70歳以上)や児童・幼児(13歳未満)であるときだそうです。

参加者19名の一人として詐欺対策を学び、詐欺に対抗する仲間がいると感じました。ありがとうございました。

(1組 川良徳弘)



国際電話利用契約の利用休止申請QRコード

## 調整池周辺の草刈り実施

### 第2回「調整池周辺草刈り」

十一月十六日、秋晴れのもと第2回調整池周辺草刈りが実施されました。九時頃から有志の方たちが草刈り機、ブロワー、芝刈り機などを使ってにぎやかに作業が始まりました。九時過ぎからは会員の皆様に参加して、思い思いに熊手やほうきを使って、落ち葉を一杯集めて収納袋に詰め込んでいきました。作業前の写真と作業後の写真を見比べると、きれいになったのが一目瞭然です。作業中の皆様にお声かけさせていただき、たくさん写真を撮りました。一部を使わせていただきます。私も落ち葉を詰めて、その感触を楽しみました。肌寒くなってきた落葉はまだまだ続きますが、草が刈られて公園周りはすっきりとして、気持ちも晴れやかにになりました。今年最後の環境整備イベント、お疲れ様でした。

(1組 川良徳弘)



## 神明社禮大祭 九月二十八日実施

### 「鎮守の森」に 歓声よ 届け

神明社が現在の地に移されたのは、約七十五年前の昭和二十四年頃のこと。神社巡りマップによると、氏子たちの労力奉仕により、2年かけ、山を切り開き、本殿覆宮、幣殿(洗心舎)、拝殿を建立したとされている。周辺には、かつて炭焼きや椎茸栽培で使う雑木を育て、そして切り出した薪炭林が今も残り、結果的に「鎮守の森」のような相をなしている。

さて、今年も滞りもなく行われた禮大祭。氏子総代の大家勉さん、前総代の霧生貞一さんをはじめ、氏子のみなさん、町内会や子ども会の役員ほか、大勢の方々のご尽力で、朝九時、池田宮司をお招きし、御神酒や鯛など、お供えを準備、そして奉納し、十時に式典を開始した。

神様が乗り移ったお神輿2つが広袴公園に移され、子どもたちは青色の法被をまとい、十三時頃、先導に続き、子ども神輿、本神輿が巡行を開始。途中、せせらぎで一度、休憩し、最後はラストパート。力の限り、わっしょいわっしょい、声をかけあいながら、小一時間の行を終えた。少子化の波はおさまらず、しかし、祭りは続く。子どもの歓声の響く広袴の地よ、永遠に。

(4組 篠田道秀)



# 広袴おりおり

第40回



## キジバトの求愛ディスプレイ

広袴周辺のどこでも一年中見られる野鳥にキジバトがいる。掲載した写真もあらゆる場所で撮影したものである。

写真①は広袴公園での、②は真光寺川の水辺での撮影。水を飲む際は浅瀬も歩く。

③は幼鳥。頭部にモフモフとした羽毛が残っている。キジバトは年に何回も繁殖する上、成長も早く、若鳥が多く見られる。

④は草地で植物の種子などを採食している典型的姿。地面を採食する際、餌によっては首を少し横にして嘴を寝かせ気味にしていることが分かる。その方が種子な



② 2023, 8, 18



① 2023, 8, 23



④ 2023, 8, 19



③ 2015, 11, 21



⑤ 2015, 1, 16



⑥ 2015, 7, 15



⑦ 2015, 4, 25

どを掬い取りやすく、また片方の目が上を向くことになり、捕食者が現れたらすぐに気付きやすくしているものと推測される。

⑤～⑦の通りキジバトは、採食中でも休んでいる時でも、つがいで寄り添っている場合が多い。⑤、⑥はシンクロしていて面

を意味する場合の他、求愛ディスプレイを意味する場合が多い。⑨でも、⑩の通り離れたところにまだつがいになっていないメスと思われるキジバトがいたので、それに向けたオスからの求愛と推測された。

さて広袴池の中島エリアは、地上の捕食者から狙われにくいので各種野鳥の巣作りに適している。キジバトが池の周りの土手から中島へ何度も往復して巣材を運ぶ様子を見かけたこともある。そして巣立ち後の幼鳥の待機に適しているのが、⑪の池の西南側の樹木が繁茂している場所である。写真に写るのは三羽

白い。⑦は真光寺川上流沿いの畑地でのつがい。採食に夢中になっても、離れ過ぎないようになっている。

⑧、⑨は尾根道東端の林の中の樹上にいたキジバトが喉を膨らませているところ。それは、威嚇や縄張りの主張

七、八羽の群れであり、多くは若鳥のようであった。安全性を確保して生き残りを図っている。



それは、威嚇や縄張りの主張

喉元を風船のように膨らませ王侯と化する森のキジバト (十六組 篠田泰蔵)



⑨ 2021, 6, 3



⑧ 2021, 6, 3



⑩ 2021, 6, 3



【広袴池 西南側】

⑪ 2022, 11, 9



⑫ 2024, 2, 24

## 余話

左の⑫は、広袴

池西南側の、まるでマングローブのように水面上空に樹木の枝が繁茂している場所で、キジバトが池の水を飲んでいる写真である。

水を飲む体勢は捕食者から狙われやすい。しかし、画面には写っていないが、実際には本文⑪と同様、キジバト同士群れで集まって警戒しており、それによって襲われる危険が減っている。